

校長あいさつ

山形県立鶴岡中央高等学校
校長 兼子 由香

山形県立鶴岡中央高等学校は、平成10年に県立鶴岡家政高等学校と県立鶴岡西高等学校を統合して設立された普通科と総合学科を有する学校です。

本校は、「立志・気づき・共生」を校訓として、「夢を夢で終わらせない力」「いつもだれかを思って考えられる力」「ふるさとのために活動する力」をもつ生徒の育成を目指しています。グローバルな視点で物事を考え、伝統や地域の良さを探究し、ローカルに活動していく人材を育む学校です。

本校は、JR鶴岡駅から徒歩15分、北に鳥海山、東に月山を望み、庄内平野の大地に立ち、加えて「鶴岡サイエンスパーク」として多くの研究施設等が集積する地域にあり、すばらしい自然と文化にあふれる環境の中にあります。

本校では、世界最先端の研究開発をしている慶應義塾大学先端生命科学研究所（IAB）とは、「U-18研究助手制度」を通じた高大連携を結んでいます。この制度を利用し、IABの研究助手に採用された多くの鶴岡中央生が世界最先端の研究の一翼を担っています。学校隣にあるドーム型の保育施設では、生徒が放課後などにボランティア活動を行うなど、鶴岡サイエンスパークの各施設との連携がさらに深まっています。

また、地元鶴岡の伝統的産業である「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」が日本遺産に認定されており、絹織物をPRするため、本校生徒は「シルクガールズ」として、鶴岡市のシルクタウンプロジェクトに参加するなど、様々の分野で地域やふるさととの共生を目指しています。

このように地域に根ざした教育活動を推進し、地域の皆さまに愛され、必要とされる学校として教職員・生徒・学校関係者が一丸となって、活力あふれる学校づくりを進めてまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。